

『カリキュラムの作成とその改善』

若 槻 徹 waka@bs.kkm.ne.jp
(加茂町立加茂小学校)

はじめに

- ・自己紹介
- ・発表内容について

加茂小のカリキュラム作成と評価について

1. 「総合的な学習」の目標や指導計画作成について

(1) 本校の「総合的な学習の時間」の目標

「ふるさと」について学ぶ学習を通して、身近なものに関心を持ち、進んで人と関わり、自分を表現したり、自分で追求したり、広い視野で考えたりできる子どもの育成。

育てたい力

自分で表現する力（自己表現力）

- ・自分を表現しようとする。
- ・自分なりの思いや考えを表現できる。
- ・他へ伝えることができる。

自分で考える力（追求力）

- ・自分から進んで取り組む。
- ・関心を持ち、課題を見つけることができる。
- ・情報を集めたり、活用することができる。
- ・課題を追求していく。
- ・活動を振り返ることができる。

人と関わる力（コミュニケーション力）

- ・相手と関わろうとする。
- ・相手のよさを認める。
- ・協力しながら取り組める。

(2) 「総合的な学習の時間」の課題（テーマ）

本校では「総合的な学習の時間」の学習活動を行うに当たって、児童の実態や地域の特色を生かし、地域の人との関わりを大切に「ひと・ふるさと・せかい」構想と、各学年の育てたい力等を考えて、ふさわしい単元を学年で設定するようにした。

(3) 指導計画作成の基本的な考え方

「ひと・ふるさと・せかい」構想を生かして

“地域で、人との関わりが持て、視野を広げることができるような”単元を取り上げる。

- ・地域素材を生かし、体験ができるもの
- ・地域のよさを感じるもの
- ・人との関わりが持てるもの等

育てたい力と照らし合わせて

各学年での育てたい力に照らし合わせて、ふさわしい単元構想を考える。

活動意欲や活動の発展性を考えて

- ・児童の意欲や関心が持てるものを取り上げる。
- ・活動が広がっていったり、生活に振り返って考えたりできる単元を考える。
- ・年間を通して単元が発展していくようなつながりも考える。

各教科等と「総合的な学習の時間」の関連を図って各教科等で身に付けた力が発揮できたり、関連的に取り扱うように指導計画を工夫する。

2 本校の「総合的な学習の時間」の課題と次年度の計画

(1) 1年間の取り組みの反省

1年間の実践を振り返り、改善を図るために次の視点で検討し、課題を明らかにしていった。

児童の学習状況の評価

- ・人前で自分の考えを発表できる児童が多くなってきた。
- ・地域の人と接する機会が増え、気軽に大人の人に話しかけたりできる児童が増えてきた。
- ・自らいろいろな人に聞いたり、調べようとする姿勢が見受けられるようになってきた。
- ・発表する機会が増え、慣れてきてはいるが、自分の言葉で自信を持って話したりする面はまだ足りない。等

支援や評価などの指導についての評価

- ・課題設定、追求方法、発表方法などで、どんな方法・手段・支援があるかを実践を通して少しずつ明らかにするなど、支援や評価の工夫に努めた。
- ・学習過程に応じた支援の工夫について更に具体化を図っていく必要がある。
- ・ポートフォリオを評価としてだけでなく支援としても積極的に活用していく。等

児童・保護者へのアンケート調査

- ・町外や外国との交流を望む児童が多い。
- ・保護者の中には、人との交流や根気強さ、協力の力や態度を身に付けてほしい声が多い。
- ・福祉・環境・国際交流に関する内容を望む保護者が多い。

(2) カリキュラム評価

実践を振り返ってみると、「育てたい力」を明確にして、体験を重視したり、時間をかけて課題発見する学習を多く取り入れてきた。しかし、これまでの年間活動計画では、各学年が中心となってそれぞれでカリキュラム作りを進めてきた面が強く、各学年の関連が弱かったり、似かよった内容になったりして学校全体の系統性や体系化ができていないという反省が残った。そこで、学年単位で開発してきた単元を、学校全体で、共通理念に基づいて、テーマ(単元)の系統性を持たせ、各学年での意味づけをしながら修正していくことにした。

単元の評価の視点

これまで実践してきた単元を振り返り、学校として各学年に位置付けて取り上げたい単元について考えていった。その際、各単元を評価していくための視点を次のように位置付けた。

単元評価の視点（単元設定の条件にもなる）

条 件	単元評価の視点
活動の広がりや学びの深まり	・活動内容に広がりがあるか。 ・学習の深まりが持てるか。 ・一人一人の個性が生かせるか。
発展性	・単元に発展性があるか。 ・自分の生活を振り返って考えることができるか。
意 欲	・児童の意欲、興味関心の持てるものか。 ・一人一人の「こだわり」が持続できるものか。 ・(できたぞ!)という達成感や満足感が持てたか。
加茂のよさ	・加茂の特色(自然、文化、歴史)を生かしたものか。 ・加茂のよさがわかるものか。
双方向性	・人と関わることができるか。 ・双方向性があるか。

3 学校全体計画「加茂プラン」について

(1) 学年・学級の主体性も生かした学校としての基準

これまでの「学年プラン」中心の単元構想を振り返り、単元の系統化、体系化を考えた学校としての全体計画を次のように作成していった。その際、学年としての主体性も大切に、教師の願いも反映できるものにしたいと考えた。実践を推進していく担任の思いを生かすことで、子どもと共に主体的に取り組む「総合」にしていきたいと考えている。

ひと・ふるさと・せかい 精想

みどりタイムの目標

ふるさとについて学ぶ学習を通して、身近な物に関心を持ち、進んで人と関わって自分を表現したり、自分で追求したり、広い視野で考えたりできる子どもの育成をめざす。

「ひと・ふるさと・せかい」は、単元の内容を表すものではなく、どの単元においても、「ひと・ふるさと・せかい」に関わるものがあると考え、ふるさと(加茂)を活動の場(フィールド)としてひと(地域の人、友達、まだ知らない人等)との関わりを通して、せかいを(視野を広げて)考えていこうとする。

育てたい力

自己表現力 追求力
コミュニケーション力

学校としての基準

教師の願い

子どもの実態をもとにした教師自身の思い

学年・学級の主体性

単元の系統性、体型化を考えた学校としての基準を作ると共に、学年・学級の主体性を大切に教師の願いを反映できるようにした。

(2) 単元の設定基準を明確にしたカリキュラム

学年間の連携を図り、単元の系統化、体系化を考えたカリキュラムの作成のために、単元を設定する上での学校としての基準を明確にした。

単元の設定のための基準として、「価値ある体験」(スコープ)と、「主体的な学びの力」(シークエンス)の2つの視点を位置付けた。

単元設定の基準



これまでの実践から、単元の扱い方や各学年段階で考慮したいことについてまとめ、単元を考える上での留意点として位置付けた。

単元設定の留意点

学年	単元について ・留意点
3年	「総合」の学び方を知り、いろいろな体験をし、興味を持って取り組む。 ・短めな単元を繰り返し、いろいろな調べ方やまとめ方を経験する。
4年	関心や興味を持ったことを自分なりに試行錯誤しながら取り組む。 ・比較的長い時間の中で、課題を見つけたり、繰り返し調べたりする。
5年	よりよい追求方法を求めながら、方法を工夫して進んで取り組む。 ・短めな単元のサイクルで、いろいろな面から加茂を見つめ、課題を追求していく。
6年	自分の見つけた課題を自分なりに追求し、表現して相手に伝える。 ・最後には個人で追求していく学習も取り入れる。

学校全体としての系統性を考えた具体的な単元として「おすすめ単元」(その学年でぜひやってほしい単元)と「おためし単元」(試行としてやってみてほしい単元)を設定した。

「おすすめプラン」と「おためしプラン」

学年	おすすめプラン	おためしプラン
3年	地域の名人をめざす単元 加茂の自慢を探る単元 お年寄りさんとの交流	
4年	赤川をテーマとした学習	
5年	今の加茂を福祉・健康・環境等の面で考えていく学習	
6年	他との交流を通してふるさと加茂を見つめ直す単元	
3年		「総合的な学習の時間」の紹介を6年生から聞く単元
6年		「総合的な学習の時間」の紹介を3年生にする単元